

令和4年度 第2回鈴鹿市地域ケア推進会議（鈴鹿市高齢者施策推進協議会） 事項書

日時 令和4年11月17日(木) 午後3時00分

場所 鈴鹿市役所12階 1203会議室

1 あいさつ

2 事務連絡

資料1 鈴鹿市地域ケア推進会議委員名簿

資料2 令和4年度 第1回鈴鹿市地域ケア推進会議の要点

3 議事

(1) 会議の公開について

(2) 協議事項

身元保証と金銭管理等について

ア 権利擁護体制の強化

資料3 権利擁護体制図

イ 身元保証がない方の入院・入所に係るガイドラインの作成

資料4 「身寄りがない方の入院・入所に関するガイドライン」(素案)

資料5 ガイドライン作成に係る課題一覧

ウ エンディングノートの活用やACPの周知啓発等、終活支援の推進

「イマドキの終活」権利擁護講演会 チラシ

「もしもの話をもっと身近に」市民公開講座 チラシ

(3) 報告事項

ア 地域共生社会の実現へ向けた包括的支援体制の整備の進捗状況

イ 地域ケア圏域会議の実績報告

資料6 令和4年度 地域ケア圏域会議開催報告

ウ 認知症連絡会の取組について

資料7 認知症連絡会の取組状況

エ 第10次鈴鹿市高齢者福祉計画の策定について

資料8 第10次鈴鹿市高齢者福祉計画の策定について

#### 4 その他

##### (1) 次回会議の予定について

6月上旬 高齢者福祉計画策定委員会（第9次計画の進捗評価）  
地域ケア推進会議

6月下旬 高齢者福祉計画策定委員会（第10次計画の検討）

## 鈴鹿市地域ケア推進会議(鈴鹿市高齢者施策推進協議会) 委員名簿(敬称略・順不同)

構成区分	氏名	団体名
学識経験者	スガワラ シュウジ 菅原 秀次	学校法人鈴鹿医療科学大学
医療, 福祉及び保健関係者	サイジヨウ ヒデオ 西城 英郎	一般社団法人 鈴鹿市医師会
医療, 福祉及び保健関係者	ハセガワ ユタカ 長谷川 豊	一般社団法人 鈴鹿歯科医師会
医療, 福祉及び保健関係者	ワコウ ミキ 若生 美樹	一般社団法人 鈴鹿亀山薬剤師会
医療, 福祉及び保健関係者	ヨシダ ヒトミ 吉田 ひとみ	特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会鈴鹿亀山支部
医療, 福祉及び保健関係者	キクヤマ ヨシマサ 菊山 佳昌	鈴鹿亀山訪問リハビリテーション連絡協議会
医療, 福祉及び保健関係者	サイトウ アヤコ 齋藤 綾子	J A三重厚生連 鈴鹿厚生病院
医療, 福祉及び保健関係者	ナカニシ ジュンイチ 中西 淳一	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会
医療, 福祉及び保健関係者	テラダ タカシ 寺田 隆	鈴鹿市民生委員児童委員協議会連合会
医療, 福祉及び保健関係者	イトウ ケンジ 伊藤 健司	鈴亀地区老人福祉施設協会
医療, 福祉及び保健関係者	ヤマモト カツヤ 山本 勝也	鈴鹿市老人クラブ連合会
医療, 福祉及び保健関係者	フクダ モトメ 福田 智女	三重県介護支援専門員協会鈴亀支部
医療, 福祉及び保健関係者	マツナガ マユミ 松永 真由美	鈴鹿市訪問看護部会
医療, 福祉及び保健関係者	ナカヒガシ マキ 中東 真紀	機能強化型認定栄養ケア・ステーション鈴鹿
医療, 福祉及び保健関係者	アツミ ダイスケ 渥美 大輔	鈴鹿市デイサービス事業所連絡協議会
医療, 福祉及び保健関係者	タマダ コウイチ 玉田 浩一	一般社団法人 三重県地域密着型サービス協議会
医療, 福祉及び保健関係者	ハセガワ トモコ 長谷川 友子	地域包括支援センター
関係行政機関の職員	イトウ アツシ 伊藤 淳	鈴鹿亀山地区広域連合
市民	クサフカ カズオ 草深 一夫	市民公募委員
市民	イチカワ サカエ 市川 栄	市民公募委員

## 令和4年度 第1回 鈴鹿市地域ケア推進会議の要点

日時 令和4年6月2日(木) 午後3時

場所 鈴鹿市役所本館12階 1203会議室

## 1 地域共生社会の実現へ向けた包括的支援体制の整備の進捗状況について

○狭間問題など、複雑化・多様化する福祉課題を抱える住民が増加している。

- ・介護，障害，子ども，生活困窮などの相談支援を一体的に行う仕組みが必要。
- ・相談支援包括化推進員兼CSWを4名社協に設置。
- ・生活困窮者の自立支援として，健康福祉政策課に家計改善相談を実施する社協の職員1名を配置。

## 2 身元保証と金銭管理等に関する進捗状況について

## (1) 権利擁護体制の強化

○日常生活自立支援事業の推進及び成年後見制度の利用促進を図るため，中核機関を中心とした権利擁護体制の強化。

- ・令和4年度から成年後見サポートセンターみらいが市の補助金による運営から市の委託事業に変更。
- ・鈴鹿市独自の体制構築を検討。

## (2) 身元保証がない方の入院・入所に係るガイドラインの作成

○ガイドライン作成に向けたアンケート調査の実施。

&lt;病院及び施設のアンケート結果&gt;

- ・ほぼすべてが身元保証人を求めており，親族，後見人や民間の身元保証会社のほか友人・知人などに求めている。身元保証人に求める内容は，支払いの保証，退院・退所時の身柄の引き取り，死亡時の遺体・遺品の引き取りや手続き，病院では医療同意についても求められている。
- ・身元保証人がいない場合は，病院では一旦受け入れているところが多いが，施設では成年後見制度の活用や民間の身元保証会社を紹介している。
- ・身元保証人がいる場合でも解決しなかった問題は，引き取りの拒否，入院費の未払い，身元保証人自体が高齢・病気・認知症等でその役割が果たせない事例もある。
- ・病院では手術などの医療行為が必要な場合で本人の同意が困難な場合は，本人以外に医療行為の同意を求めるケースもあり，親族，民間の身元保証会社，成年後見人のほか，友人・知人，ケアマネジャー，民生委員，施設職員，地域包括支援センター職員に求めている。

&lt;ケアマネ・地域包括支援センターのアンケート結果&gt;

- ・入院，入所にあたり身元保証人の確保が難しい事例については，半数以上があると回答。最も多いのは医療機関で，ケアマネがその役割を担っている場合や，形式上知人が書類を記載した事例がある。
- ・身元保証人がいない場合の問題としては，誰がどのように判断をするのか，本当に身寄りがいないのかどうか確認することができないことや，認知症などの判断能力の低下を明らかに認めない場合は成年後見制度の対象にならず，経済的事情により民間の身元保証会社の利用が難しい場合などが挙げられている。

(3) エンディングノートの活用やACPの周知啓発等，終活支援の推進

- エンディングノートに関する講演会の実施。
  - ・権利擁護講演会，鈴鹿ふくし大学を開催。
- ACPの推進。
  - ・ACP委員会で研修を重ね，普及啓発の方法を検討。

◆主な意見

- ・大きな後ろ盾として条例の制定を検討する必要がある。
- ・ガイドラインを早急に作成してほしい。
- ・成年後見制度等について一般市民向けに各地区で勉強会を開催してはどうか。
- ・成年後見人がいれば全てが解決するわけではないことを認識してもらうことも大切。
- ・事前に意思を確認するためのエンディングノート等の活用を促進することが重要。

3 地域ケア圏域会議の実績報告

- 令和3年度地域ケア圏域会議の実施状況
  - ・4圏域から8圏域に変更になったことから，10月からのスタート。
  - ・コロナの感染状況から年2回開催予定であったが，1回の開催になっている圏域が多かった。
  - ・内容課題については，高齢者の交通手段，身元保証，支援者のいない高齢者等の課題が多く挙がっていた。